

令和7年度 立川市立立川第一中学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	○知性を磨いて個性を伸ばそう（知性） ○敬愛の心を深めて良い市民になろう（敬愛） ○勤労を愛し責任を果たそう（勤労）
---------	--

生徒に育成を目指す資質・能力	教科や学年全体に共通する取組
○主体的に学ぶ生徒・・・挑戦する、探究する ○互いに高め合う生徒・・・感謝する ○他人のために力を尽くす生徒・・・貢献する	・授業のねらい、流れ、振り返りを明確に示す。 ・ICT 機器を積極的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを実現する。 ・根拠に基づく言語活動を充実させる。 ・UDL を意識した授業を実践する。

教科	教科で育成を目指す資質・能力	資質・能力を育成するための具体的な取組（学習活動など）
国語	○意味を理解する語句の数を増やすとともに、話や文章の中で使いこなせる力を伸ばし、語感を磨く。 ○社会問題などにおいても自分の考えをもち、文章や資料から読み取れる根拠を明確にしながら、論理的に読み手に考えを伝える力を養う。	・教科書本文の言葉を中心に、語彙の理解を重視する。 ・自分から課題を見付け、課題解決をする活動を重視する。 ・本や ICT 機器を活用し、情報活用能力を養いながら、文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動を重視する。
社会	○基礎的・基本的な知識を確実に定着させる。 ○情報を的確に読み取り、表現する力を育成する。 ○自信をもって、自分の意見を発信する力を育成する。	・定期考査に加え、単元ごとの小テストを実施し、知識の定着を図る。 ・様々なグラフや資料に触れ、そこから得られる情報を読み取り、言語化する活動を通して、情報活用能力を養う。 ・オンラインホワイトボードの活用や、協働学習後に全員が発表する場を設けることで、発信力や発言力を高める。
数学	○基礎的・基本的な計算を正確に解ける力を伸ばす。 ○文章題や図形において、どのように解決するか、なぜそうなるかの根拠を理解し、考える力を伸ばす。	・授業の中で基本的な計算問題の反復練習を適宜行い、知識の定着を図る。（途中式を書く習慣を付けさせる。） ・既習事項と現在の学習内容を関連付けて解き方の根拠に着目させる。また、生徒が相互に根拠をもとに説明し合い、理解の充実を図る活動を重視する。
理科	○数値・グラフを読み取る力や計算によって導き出す力を伸ばす。 ○観察・実験から、課題に対する自らの考えを科学的に考察し、表現できる力を伸ばす。 ○他者の考えを聞き、自らの考えを伝える力を伸ばす。	・グラフや表の作成・読み取りや計算を用いた活動では、互いに教え合う時間を設け、理解度の向上を図る。 ・「一人で分析→グループで共有・検討」を繰り返すことで科学的に考察する見方・考え方の幅を広げる。 ・考えを伝える範囲を段階的に広げ、他者に考えを伝える力の向上を図る。
音楽	○創意工夫を生かした音楽表現のために必要な技能を身に付け、全体の響きや各声部を聴きながら表現する力を育てる。 ○聴く力を育てることで音楽に対する感性を豊かにし、豊かな情操を培う。	・合唱の基本となる旋律・リズム・言葉・強弱の工夫を通して表現力を付けられるようにする。 ・ワークシートを活用し、音楽のよさや美しさを味わいながら聴く力を身に付け、思いや意図を表現させる。 ・創作活動を通して、創意工夫する楽しさを体験する。
美術	○観察や構想、制作、振り返りを通じて、考えながら表現することで自己理解・表現力・思考力を育てる。 ○他者の作品や意見を尊重し、対話型の鑑賞を取り入れることで他者理解・多様性理解・対話力を深める。	・作品の制作の前にはアイデアスケッチの取組や振り返りシートを通じて、制作の前後に考えの可視化を図る。 ・作品の鑑賞会を設け、作品を見て感じたことや作品に込めた想いを共有する時間を設ける。
保健体育	○主体的に学び、互いに深め合う態度を育てる。 ○健康に生きていくための知識を身に付け、生活場面で考えて行動に移す力を伸ばす。	・仲間と協力して取り組む場面や体の動かし方やコツを教え合ったりする場面を設定する。 ・生活の場面を想定した課題を設定し、その課題を解決する学習を通して、自身の心身と向き合う場を設ける。
技術家庭	○実習などを通して、課題を発見・解決する思考力や実践力を高める。 ○基礎的・基本的な技能を確実に定着させ、多様な場面で活用できる力を養う。	・生徒自身が生活上の課題を見付け、解決策を立案・実践する場面を設ける。 ・作品製作や実習などを通して、基本操作の反復練習を計画的に取り入れる。
外国語	○4技能のうち特に「話すこと」に特化し、さらにもその中でも即興性のある対話の力を伸ばす。 ○生徒が自分で課題を設定し、学び方を選びながら、協働的に学習できる力を育む。	・ALT とのチームティーチングをより充実させ、即興性のある対話の機会を多く設定するとともに、ALT と英語で対話する活動を増やしていく。 ・生徒が自分で学習課題や方法を選べるような課題解決型の活動を、単元の活動の2割を目標に設定する。